

教育目標：心豊かに たくましく伸びていく子供



# 干布小学校だより

12月号 H30.12.20

天童市立干布小学校

校長 三好 義宏

## 干布小学校 創立139周年

12月15日は本校の創立記念日となっておりますので、下記のような講話をしました。干布小の歴史や伝統を学び、将来の夢を語る子供に育ってほしいものです。

今から139年前、明治12年12月15日に、ほぼ現在の場所に、奈良沢村・原町村・上荻野戸村・下荻野戸村の四つの村が連合して、一つの小学校が建てられました。名前は、「修来学校」と言います。しかし、その前に学校が無かったのかと言いますと実はありません。奈良沢には明治7年に、長龍寺さんの中に、ご住職が先生となって、天童東学校奈良沢分校が作られていますし、他の地区にもあったようです。しかし、今の六地区の子供が通う現在の干布小学校のような学校になったのは、明治12年なのでその日を創立記念日としたのです。

さて、来年は創立140周年です。先生方や地域の方で、10年ごとの大きな区切りですので、どんな行事をしてお祝いするかを考えています。その一つに、今年から取り組んだことがあります。それは、干布小学校のイメージカラー選びです。461票の中から1位に選ばれたのが、青色の「天色」と黄色の「菜の花色」です。校舎の壁に、くっきりと塗られたマークを、これからの干布小の誇りとしてください。さて、お願いします。天色と菜の花色から連想できる、前向きで大切にしたい言葉を考えてくれませんか。例えば、モンテディの青色は、最上川のイメージであり、大きな流れは力強さを感じさせます。日本の国旗「日の丸」の丸の色は紅色であり、博愛と活力を意味しています。天色と菜の花色から、皆さんはどんなパワーを感じますか？干布小らしい、キャッチフレーズになるようなものです。今度、担任の先生を通してお聞きしますので、一緒に考えてみてください。

今年のノーベル賞に輝いた京都大学の本庶先生のニュースが流れていますね。がんをやっつける、「免疫療法」を研究している大学の先生です。その先生がこんなことを言っていました。「研究者になるなら、教科書に書いてあることを疑って自分で考えなさい。」と。これは、小学校で使っている教科書に書いてあることを信じるなという事ではありません。大学の先生のような、研究者をめざす人は、何でも最初から信じるのではなく自分の目で確かめ、自分の頭で考えて欲しいことを言っているのです。新しいことを発明・発見することは、問いかけることから始めることだと、教えてくれています。

私も、一つ問いかけて、発見することになりました。約40年間、信じられてきたことを自分で調べてみました。それは、この「修来学校」のことです。実は、二番目の漢字はこれまで「来」と考えられ、「くわやすき」を意味する漢字だと言われていました。しかし、140年前の文書やハンコを調べたら、2番目の正しい漢字は「來」だったのです。今の漢字で言うと「来」だったのです。ですから、正しい学校の名前の漢字は「修來学校」です。謎だった、学校の名前がはっきりしたのです。

歴史のある干布小学校です。来年は140周年ですので、「昔をふりかえり、今を見つめなおし、未来の夢をかたる」子供たちに育って欲しいと考えています。素敵な、干布小にしていきましょう。



## 後期前半の成長を振り返る

21日が、後期前半の最終日です。公開研究会のために、例年のない行事や日程となりましたが、保護者の皆様のご理解のおかげで、何とか子供たちの成長が図れたようです。成長の様子は、通知票に記載しており、個人面談では直接担任より伝えさせていただきました。今後、教職員がさらに心して指導すべき点も自覚しておりますので、来年、また元気に学校生活がおくれますこと、楽しみにしております。

## 1年 ほしめの小なかよしまつり大せいこう

1ねんせいはい、「ほしめの小なかよしまつり」をひらきました。みんながたいせつにかかっているザリガニでつりをしてもらったり、ハムスターをさわってもらったりしました。あさがおのたねや天どうこうげんでひろったくりでつくったストラップをプレゼントしたりもしました。たくさんのひびがきてくれて、おまつりは大せいこうでした。にんきでうれしかったです。1年 こんた みく

1年生になって、クラスの人々と仲良くなって、とても元気に生活している1年生。でも、上の学年の人とお話しするのは、ちょっぴりドキドキするんだあという1年生の思いから「全校生126人を招待しお祭をして仲良くなろう」と学習を始めました。126人分ないと悲しい思いをすると悪いから……と思いやりの気持ちを持ち、するめなどを一生懸命126数えて準備をしました。人にも生き物にも優しい心を持ち、算数の生きた力もついた学習になりました。(堀川)



## 3年 大根料理をごちそうしたよ

ほくたち3年生は、1年生から6年生にすきな大根料理アンケートを取り、ごちそうすることにしました。6年生で1番多かった料理は「みぞ汁」でした。ほくはみぞ汁を今まで作ったことがなかったし、ほうちょうの使い方にも自信がありませんでした。でも、友達が切り方を教えてくれたので、安心して作ることができました。6年生からは「うまっ。」という声がたくさんあって、うれしかったです。みんなで協力して大根料理を作ることができて大せいこうでした。3年 仲野 佑哉

3年生は、総合的な学習の時間に「野菜を育てて料理を作ろう」というテーマで活動してきました。水戸部前公民館館長さんに協力していただいて畝作りや苗植えをしたり、全校生に好きな大根料理のアンケートをして料理を作ったりしてしてきました。野菜を育てるときや料理を作るときにうまいくなかったこともありましたが、みんなで力を合わせてやり遂げました。(西塚)



## 4年 紅花のすごさを伝えよう

わたしたち4年生は、山形県の花「紅花」を育てました。最初は、「赤くて、きれいな花だな。」と思いました。調べていくうちに、かんそうさせた紅花で色をそめられること、料理にも使えることがわかって、「紅花っていろんなことができるんだな。」とびっくりしました。みんなに、紅花のすごさを伝えるために紅花フェスティバルをしました。わたしは、しゃてきチームのリーダーになりました。2日間で100人くらいお客さんが来て、とてもうれしかったです。4年 富樫 柚香

山形県の花「紅花」を育ててその活用法を追究していくと、子供たちはたくさんの不思議を発見することができました。その中で学んだことを、学習発表会と紅花フェスティバルで伝えたいという思いが強まりました。紅花に関する絵本の読み聞かせや紅花グッズが当たる「射的」など、チームごとに工夫をこらしたイベントでたくさんの人と関わることで学習が深まりました。(高橋)



## 5年 干布モンテ祭りの成功

干布モンテ祭りを成功させるために、ほくは、たくさんの準備をしました。そして待ちに待った本番。公民館には、たくさんのお客さんが来てくれました。それに、なんとモンテの松岡亮輔選手も来てくれて、会場を一気に盛り上げてくれました。やっぱり松岡選手はすごいなあと思いました。お客さんがすごく喜んでくれたから、祭りは大成功だと思いました。モンテや干布モンテ応援隊からたくさん協力してもらったおかげで、この祭りが成功できたと思いました。5年 水戸部東次

「モンテで干布地区を盛り上げたい。」「モンテの観客をもっと増やしたい。」そんな願いから始まった総合的な学習の時間。「大好きなモンテのことを、干布の人たちにもっと知ってもらいたい。」という子供たちの熱い思いが、この祭りにたくさんつまっていた。この活動を通して、計画や準備の仕方、相手意識や協力の大切さなど、子供たちはたくさんを学んだと感じています。(深瀬)

